

2019年度日本臨床衛生検査技師会  
中四国支部医学検査学会（第52回）  
学会長 三島清司  
（一般社団法人島根県臨床検査技師会 会長）



令和最初の日臨技中四国支部医学検査学会を島根県臨床検査技師会担当で11月2日（土）・3日（日）に島根県民会館（島根県松江市）を中心に開催いたします。

急速に進む少子高齢化のなかで多くの課題に直面する一方、AIが急速に進化し医療にも導入されつつあります。このような時代においても臨床検査の果たす役割は大きく、医療だけでなく、予防や介護などにも利用範囲は拡大しています。これからの臨床検査技師は臨床検査を必要としている人たちの元へ出向き、その要望に応じていかなければなりません。そこで、メインテーマを「検査の力」、サブテーマを「臨床検査の可能性を求めて」としました。

特別講演では「AIとこれからの臨床検査」と題し、諏訪部 章 先生に今後急速な進歩と導入が予想されるAIの臨床検査領域に及ぼすメリットとデメリット、そしてデメリットに対してどう取り組むべきかについてご講演いただきます。また、看護師としての専門性を活かしながら、住民の暮らしに溶け込み先駆的な活動をされている矢田明子先生に「まちを元気にするコミュニティナース」と題しご講演いただきます。いずれもこれからの我々臨床検査技師のあり方を考える大きなヒントが得られるものと期待しています。

教育講演では鈴宮淳司 先生に「リンパ腫診療の進歩」と題してご講演いただくほか、9つのテーマでシンポジウムを開催します。

また、日臨技企画として宮島喜文会長に「教育制度の改革と臨床実習のあり方」と題して、時代に即した臨床検査技師教育制度のあり方についてご講演いただきます。中四国支部内の臨床検査技師養成校の学生を対象とした学生フォーラムや島根県内の中高生を対象として臨床検査技師の職業を紹介する中高生のための職業紹介も開催します。

その他、14題のランチョンセミナーや34社に出展いただく企業展示も開催いたします。元号も「平成」から「令和」へと変わり、新しい時代を迎えました。本学会が臨床検査や臨床検査技師の輝かしい未来への足掛かりとなることを強く願っています。

学会場となる島根県民会館は、2015年に国宝指定された松江城に隣接し、周囲には城下町らしい佇まいを残している塩見縄手やお堀を船で巡る堀川遊覧船、学会ポスターにも採用した宍道湖の夕日など観光名所が数多くあります。少し足を延ばせば縁結びの神様として有名な出雲大社や横山大観コレクションや庭園で有名な足立美術館、世界遺産の石見銀山もあります。学会翌日の11月4日は祝日です。学会とともに紅葉シーズンの島根路をご堪能頂けたらと思います。

末筆ながら、多大なるご支援ご協力を賜りました各県技師会役員ならびに会員、賛助会員の皆様に深く感謝申し上げます。

島根県臨床検査技師会員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。